

## 環境指標の状況について

第2次山梨県環境基本計画(以下「本計画」という。)(平成26年3月策定)において、本県では、環境の保全と創造のための施策の展開として6分野と重点的に取り組む施策として7分野を定め、現状と課題を整理し施策の方向を示しています。

これらを進行管理するために、それぞれの施策において代表的な76項目の環境指標(重複の環境指標25項目)を設けています。

平成28年度末時点における、環境指標の状況(現状値)は次のとおりです。

### 1 全般的な状況

指標の状況を、目標値に達しているもの(S)、基準値と比較し上回っているもの(A)、基準値と比較し横ばいであるもの(B)、基準値と比較し下回っているもの(C)に分類した結果は、下図表のとおりです。(詳細は「3 環境指標一覧」のとおり。)

目標値に達している指標(S)は30項目(39.4%)、基準値と比較し上回っている指標(A)は26項目(34.2%)で、計56項目(73.6%)が基準値以上となっております。

図表1 第2次山梨県環境基本計画 施策分野毎の環境指標の状況(平成28年度)

環境の保全と創造のための施策の展開		S	A	B	C
1	環境負荷の少ない循環型の地域社会づくり	1	2	0	3
2	安全・安心で快適な生活環境づくり	10	3	1	0
3	生物多様性に富んだ自然共生社会づくり	4	3	0	1
4	地球環境の保全に貢献する地域社会づくり	2	2	1	1
5	持続可能な社会の構築に向けた地域づくり・人づくり	3	2	0	3
6	環境の保全と創造のための基盤づくり	1	0	0	2
重点的に取り組む施策		S	A	B	C
重点1	富士山及び周辺地域の良好な環境の保全	2	2	0	2
重点2	健全な森林・豊かな緑の保全	1	2	0	0
重点3	持続可能な水循環社会づくり	3	2	0	0
重点4	環境にやさしく自然と調和した美しい県土づくり	1	4	0	1
重点5	廃棄物等の発生抑制等の推進	1	2	0	3
重点6	野生鳥獣の保護管理・鳥獣害防止対策の推進	0	1	0	1
重点7	エネルギーの地産地消による地球温暖化対策の推進	1	1	1	0
合 計		30	26	3	17

S: 指標が目標値に達しているもの A: 指標が基準値と比較し上回っているもの

B: 指標が基準値と比較し横ばいであるもの C: 指標が基準値と比較し下回っているもの

指標が目標値に達している項目（30項目）

大気汚染に係る環境基準達成率(指標番号7、8、9、10、12)、水質汚濁に係る環境基準達成率(指標番号14、15)、森林吸収源対策による森林の二酸化炭素吸収量(指標番号30)等

指標が基準値と比較し上回っている項目（26項目）

一般廃棄物総排出量(指標番号1)、エコドライブ宣言車両率(指標番号13)、生活排水クリーン処理率(指標番号16)等

指標が基準値と比較し横ばいだった項目（3項目）

大気汚染に係る環境基準達成率(光化学オキシダント)(指標番号11)やクリーンエネルギー導入出力(小水力発電)(指標番号33、76)

指標が基準値と比較し下回っている項目（17項目）

一般廃棄物再生利用率(指標番号3)、産業廃棄物最終処分量(指標番号6)、富士山科学カレッジ修了者数(指標番号36)等

## 2 主要な指標の動向

### (1) 廃棄物

一般廃棄物総排出量は、指定ゴミ袋制度の導入や生ごみ処理機の購入に対する助成等のごみ減量化への取り組みにより、基準年より減っています。一方で、産業廃棄物総排出量と最終処分量は、指標を設定した時点より建設工事が増加し、それに伴い建設骨材として必要となる採石、砂利等の生産過程から排出される再生利用が困難な鉱業汚泥が増えたことなどにより基準値と比較し増えております。(指標番号1～6)

### (2) 大気環境

県外から大気汚染物質が移流するなど外部的要因が大きい光化学オキシダントを除き、指標は目標値に達しております。引き続き、大気汚染状況の常時監視や工場・事業場の監視指導を進めます。(指標番号7～12)

### (3) 水質

湖沼5地点と河川22地点の全ての地点で指標は目標値に達しております。引き続き、工場・事業場における適切な排水処理の徹底を図り、生活排水処理施設の整備等を推進します。(指標番号14、15)

### (4) 森林吸収源対策による森林の二酸化炭素吸収量

間伐や造林等、森林整備による森林吸収源対策を進めたことにより、指標が目標値を上回りました。(指標番号30)

### (5) 環境指標の変更

「山梨県生活排水処理施設整備構想2017」や「やまなしエネルギービジョン」など、新たな計画の策定に伴い、環境指標を変更しました。(指標番号16、28、30～33、53、58、65、74～76)

### 3 環境指標一覧

環境指標		基準値、現状値及び目標値のかっこ内は年度。かっこ書きがない目標値は計画最終年度(H35)の目標。						
指標の項目	基準値	現状 (H27末)	現状 (H28末)	目標値	H27 推進 状況	H28 推進 状況	備考	
1 環境負荷の少ない循環型の地域社会づくり								
1 一般廃棄物総排出量	328千t (H20)	313千t (H26)	311千t (H27)	293千t (H27)	A	A	指定ゴミ袋制度の導入によるゴミ袋の有料化等、ごみ減量化への取り組みにより基準値より減少している。	
2 1人1日当たりに家庭から排出するごみの量	623g/日 (H20)	600g/日 (H26)	602g/日 (H27)	505g/日 (H27)	A	A	指定ゴミ袋制度の導入によるゴミ袋の有料化等、ごみ減量化への取り組みにより基準値より減少している。	
3 一般廃棄物再生利用率	18.5% (H20)	16.9% (H26)	16.3% (H27)	25% (H27)	C	C	溶融スラグ生成量の減少やごみ固形燃料化施設の停止により、中間処理後の再生利用量が減少したこと等による。	
4 産業廃棄物総排出量	1,841千t (H20)	1,847千t (H26)	1,848千t (H27)	1,764千t (H27)	C	C	指標設定時の想定より建設工事が増加し、構造物の解体や建設骨材からの廃棄物が増加したことによる。	
5 産業廃棄物再生利用率	50% (H20)	55% (H26)	55% (H27)	50% (H27)	S	S	目標値を上回っている。	
6 産業廃棄物最終処分量	144千t (H20)	153千t (H26)	151千t (H27)	105千t (H27)	C	C	指標設定時の想定より建設工事が増加し、建設骨材として必要となる砂利等の生産過程から排出される再生利用等の困難な汚泥の増加したことによる。	
2 安全・安心で快適な生活環境づくり								
7 大気汚染に係る環境基準達成率(二酸化硫黄)	3/3 (H24)	3/3 (H27)	3/3 (H28)	3/3 (H30)	S	S	すべての測定局で環境基準を達成。	
8 大気汚染に係る環境基準達成率(一酸化炭素)	2/2 (H24)	2/2 (H27)	2/2 (H28)	2/2 (H30)	S	S	すべての測定局で環境基準を達成。	
9 大気汚染に係る環境基準達成率(浮遊粒子状物質)	12/12 (H24)	12/12 (H27)	12/12 (H28)	12/12 (H30)	S	S	すべての測定局で環境基準を達成。	
10 大気汚染に係る環境基準達成率(二酸化窒素)	11/11 (H24)	11/11 (H27)	11/11 (H28)	11/11 (H30)	S	S	すべての測定局で環境基準を達成。	
11 大気汚染に係る環境基準達成率(光化学オキシダント)	0/11 (H24)	0/11 (H27)	0/11 (H28)	達成率の向上を図ります。	B	B	県内の原因物質とともに県外からの大気汚染物質の移流等による。	
12 大気汚染に係る環境基準達成率(微小粒子状物質)	5/5 (H24)	5/6 (H27)	6/6 (H28)	6/6 (H30)	C	S	すべての測定局で環境基準を達成。	
13 エコドライブ宣言車両率	20.1% (H24)	20.5% (H27)	20.7% (H28)	22% (H30)	A	A	エコカーの普及、エコドライブの認知度の向上、企業の団体宣言が増加したことによる。	
14 水質汚濁に係る環境基準達成率(河川)(BOD)	河川22地点中21地点 (H24)	100% (H27)	100% (H28)	河川22地点中22地点 (H30)	S	S	河川22地点すべてで環境基準を達成。	
15 水質汚濁に係る環境基準達成率(湖沼)(COD)	湖沼5地点中5地点 (H24)	100% (H27)	100% (H28)	湖沼5地点中5地点 (H30)	S	S	湖沼5地点すべてで環境基準を達成。	
16 生活排水クリーン処理率	80.7% (H27)	-	81.3% (H28)	87.3%	-	A	生活排水クリーン処理率は、着実に上昇している。	
17 ダイオキシン類の環境基準達成地点数(大気、公共用水域、地下水質及び土壌)	すべての調査地点で達成(H24)	100% (H27)	100% (H28)	すべての調査地点で達成(H30)	S	S	すべての調査地点で環境基準を達成。	
18 自動車騒音に係る環境基準達成率	環境基準の全国平均達成率(H23全国平均91.8%)	95.0% (H27)	95.6% (H28)	全国平均を上回る達成率を維持します。	S	S	安定して全国平均を上回っている。	
19 国・県指定文化財の新規指定件数	-	12件 (H27)	18件 (H28)	25件 (H30)	A	A	新規指定件数は、着実に増加している。	
20 '緑の教室'受講者数	980人 (H24)	1,676人 (H27)	1,615人 (H28)	1,380人	S	S	各種講座を県内各施設で分散開催したことなどにより、目標値を上回っている。	

	指標の項目	基準値	現状 (H27末)	現状 (H28末)	目標値	H27 推進 状況	H28 推進 状況	備考
3 生物多様性に富んだ自然共生社会づくり								
21	自然環境保全地区面積 (自然造成地区は除く。)	3,650ha (H24)	3,650ha (H27)	3,650ha (H28)	3,650ha (H30)	S	S	自然環境保全地区面積の増減はなし。
22	鳥獣保護区等指定面積	74,795.9ha (H24)	74,795.9ha (H27)	74,795.9ha (H28)	74,795.9ha (H28)	S	S	鳥獣保護区等指定面積の増減はなし。
23	自然公園等利用者数	4,179万人 (H24)	4,618万人 (H26)	4,968万人 (H27)	4,400万人 (H30)	S	S	目標値を上回っている。
24	県内の山小屋トイレの整備率	87.0% (H25)	89.7% (H27)	89.9% (H28)	91.0% (H30)	A	A	県内の山小屋トイレの整備率は、着実に上昇している。
25	ニホンジカの推定生息数	69,917頭 (H24)	69,917頭 (H24)	71,146頭 (H27)	33,000頭	B	C	基準値より増加している。第二種特定鳥獣管理計画に基づき、個体数調整を推進していく。
26	獣害防止柵の整備による被害防止面積	3,531ha (H26)	3,835ha (H27)	4,063ha (H28)	4,500ha (H31)	A	A	面積は着実に増加している。
27	身近な自然環境や動植物の生息・生育・繁殖環境に配慮した河川整備計画における河川整備率	50.6% (H26)	51.8% (H27)	54.8% (H28)	58.7% (H31)	A	A	河川整備率は、着実に増加している。
28	森林整備の実施面積	4,685ha (H26)	-	6,523ha/年 (H28)	6,000ha/年 (H31)	-	S	植栽・保育・間伐等の森林整備への支援を積極的に行ったことにより、目標値を上回っている。
4 地球環境の保全に貢献する地域社会づくり								
29	温室効果ガス総排出量	6,362千t-CO2 (H22)	6,477千t-CO2 (H25暫定値)	7,058千t-CO2 (H25確定値)	基準年度(H22)比 10%削減(H27)	C	C	東日本大震災の影響等に伴う原子力発電所の停止により、火力発電による発電量が増加し、電力排出係数が悪化したことによる。
30	森林吸収源対策による森林の二酸化炭素吸収量	971千t-CO2 (H25)	-	1,013千t-CO2 (H28)	808千t-CO2 (H32)	-	S	間伐や造林等、森林整備による森林吸収源対策を進めたことにより目標値を上回っている。
31	木質バイオマス利用施設数	23施設 (H26)	-	31施設 (H28)	28施設 (H32)	-	S	目標値を上回っている。
32	クリーンエネルギー導入出力 (住宅用太陽光発電)(10kW未満)	8.9万kW (H26)	-	11.5万kW (H28)	14万kW (H32)	-	A	基準値を上回っている。
33	クリーンエネルギー導入出力 (小水力発電)	1.0万kW (H26)	-	1.0万kW (H28)	1.2万kW (H32)	-	B	基準値と横ばいで推移している。
34	エコドライブ宣言車両率(再掲)	20.1% (H24)	20.5% (H27)	20.7% (H28)	22% (H30)	A	A	エコカーの普及、エコドライブの認知度の向上、企業の団体宣言が増加したことによる。
5 持続可能な社会の構築に向けた地域づくり・人づくり								
35	森林環境教育の実施教育機関数の割合	62%/年 (H24)	64%/年 (H26)	63% (H27)	70%/年	A	A	基準値と比較し、森林環境教育の実施教育機関数の割合は増加している。
36	富士山科学カレッジ修了者数	29人/年 (H24)	35人/年 (H27)	17人 (H28)	32人/年 (H30)	S	C	平成28年度より2年かけて修了することもできるよう制度を変更したため、単年度での修了者が減少したことによる。
37	環境学習指導者派遣事業参加者数	3,133人/年 (H15～24平均)	4,007人 (H27)	1,914人 (H28)	3,100人/年 (H30)	S	C	派遣申請数の減少による。
38	環境美化活動参加者数	546,285人/年 (H15～24平均)	622,660人/年 (H27)	501,923人/年 (H28)	540,000人/年 (H30)	S	C	参加団体数の減少による。
39	土木施設環境ボランティア数	71団体 (H20)	91団体 (H27)	99団体 (H28)	86団体 (H26)	S	S	目標値を上回っている。
40	森林ボランティア団体数	73団体 (H22)	105団体 (H27)	106団体 (H28)	100団体 (H33)	S	S	目標値を上回っている。
41	企業・団体の森づくり活動箇所数	59箇所/年 (H24)	68箇所/年 (H27)	69箇所/年 (H28)	90箇所/年	A	A	企業・団体の森づくり活動箇所数は、着実に増加している。
42	「緑の教室」受講者数(再掲)	980人 (H24)	1,676人 (H27)	1,615人 (H28)	1,380人	S	S	各種講座を県内各施設で分散開催したことなどにより、目標値を上回っている。

	指標の項目	基準値	現状 (H27末)	現状 (H28末)	目標値	H27 推進 状況	H28 推進 状況	備考
6 環境の保全と創造のための基盤づくり								
43	環境情報センター利用者数	6,661人/年 (H24)	5,069人 (H27)	4,970人 (H28)	12,000人/年 (H30)	C	C	利用者が減少傾向にあるため、蔵書内容や項目などさらに周知に努める。
44	やまなしの環境アクセス数	9,146件/年 (H24)	20,899件/年 (H27)	20,286件/年 (H28)	12,000件/年 (H30)	S	S	目標値を上回っている。
45	環境に関するフォーラム、国際シンポジウム参加者数	262人/年 (H24)	278人 (H27)	165人 (H28)	300人/年 (H30)	A	C	一部イベントが隔年開催のため、参加者の総数が減少した。
重点1 富士山及び周辺地域の良好な環境の保全								
46	富士山環境保全活動参加者数	40,267人/年 (H24)	22,907人/年 (H26)	25,948人/ (H27)	50,000人/年 (H27)	C	C	H25.6月の世界遺産登録以降、2万人から2.5万人程度で推移している。
47	富士山環境教育参加者数	13,602人/年 (H24)	24,005人/年 (H26)	31,334人/年 (H27)	17,000人/年 (H27)	S	S	目標値を上回っている。
48	富士山チップ制トイレ協力度	36% (H24)	38% (H26)	44% (H27)	100% (H27)	A	A	着実に上昇している。引き続きトイレチップのについて周知を行う。
49	水質汚濁に係る環境基準達成率(湖沼)(COD)(再掲)	湖沼5地点中5地点 (H24)	100% (H27)	100% (H28)	湖沼5地点中5地点 (H30)	S	S	湖沼5地点すべてで環境基準を達成。
50	富士山科学カレッジ修了者数(再掲)	29人/年 (H24)	35人/年 (H27)	17人/年 (H28)	32人/年 (H30)	S	C	平成28年度より2年かけて修了することもできるよう制度を変更したため、単年度での修了者が減少したことによる。
51	電線類の地中化延長(富士北麓地域)	17.3km (H26)	24.2km (H27)	25.2km (H28)	30.8km (H31)	A	A	着実に整備している。
重点2 健全な森林・豊かな緑の保全								
52	荒廃した民有林の整備面積	312ha (H24)	2,998ha (H27)	3,911ha (H28)	8,000ha (H33)	A	A	森林環境保全基金事業第1期計画(H24～28)に基づき、荒廃した民有林の森林整備を実施している。
53	森林整備の実施面積(再掲)	4,685ha (H26)	-	6,523ha/年 (H28)	6,000ha/年 (H31)	-	S	植栽・保育・間伐等の森林整備への支援を積極的に行ったことにより、目標値を上回っている。
54	森林環境教育の実施教育機関数の割合(再掲)	62%/年 (H24)	64%/年 (H26)	63%/年 (H27)	70%/年	A	A	基準値と比較し、割合は増加している。
重点3 持続可能な水循環社会づくり								
55	森林整備の実施面積(再掲)	4,685ha (H26)	6,966ha/年 (H27)	6,523ha/年 (H28)	6,000ha/年 (H31)	S	S	植栽・保育・間伐等の森林整備への支援を積極的に行ったことにより、目標値を上回っている。
56	水質汚濁に係る環境基準達成率(河川)(BOD)(再掲)	河川22地点中21地点 (H24)	100% (H27)	100% (H28)	河川22地点中22地点 (H30)	S	S	河川22地点すべてで環境基準を達成。
57	水質汚濁に係る環境基準達成率(湖沼)(COD)(再掲)	湖沼5地点中5地点 (H24)	100% (H27)	100% (H28)	湖沼5地点中5地点 (H30)	S	S	湖沼5地点すべてで環境基準を達成。
58	生活排水クリーン処理率(再掲)	80.7% (H27)	-	81.3% (H28)	87.3%	-	A	生活排水クリーン処理率は、順調に上昇している。
59	身近な自然環境や動植物の生息・生育・繁殖環境に配慮した河川整備計画における河川整備率(再掲)	50.6% (H26)	51.8% (H27)	54.8% (H28)	58.7% (H31)	A	A	河川整備率は着実に増加している。

指標の項目	基準値	現状 (H27末)	現状 (H28末)	目標値	H27 推進 状況	H28 推進 状況	備考
-------	-----	--------------	--------------	-----	-----------------	-----------------	----

重点4 環境にやさしく自然と調和した美しい県土づくり

60	電線類の地中化延長 (富士北麓地域)(再掲)	17.3km (H26)	24.2km (H27)	25.2km (H28)	30.8km (H31)	A	A	着実に整備している。
61	国・県指定文化財の新規指定件数(再掲)	-	12件 (H27)	18件 (H28)	25件 (H30)	A	A	新規指定件数は着実に増加している。
62	「緑の教室」受講者数(再掲)	980人 (H24)	1,676人 (H27)	1,615人 (H28)	1,380人	S	S	各種講座を県内各施設で分散開催したことなどにより、目標値を上回っている。
63	エコファーマー認定者数	7,414人 (H22)	6,833人 (H27)	6,646人 (H28)	7,800人 (H26)	C	C	認定者数は横ばいで推移している。
64	有機農業に取り組む面積	115ha (H26)	132ha (H27)	140ha (H28)	200ha (H31)	A	A	面積は着実に増加している。
65	多面的機能支払交付金による取り組み面積	6,814ha (H26)	-	7,627ha (H28)	8,000ha (H31)	-	A	面積は着実に増加している。

重点5 廃棄物等の発生抑制等の推進

66	一般廃棄物総排出量(再掲)	328千t (H20)	313千t (H26)	311千t (H27)	293千t (H27)	A	A	指定ゴミ袋制度の導入によるゴミ袋の有料化等、ごみ減量化への取り組みにより基準値より減少している。
67	1人1日当たりに家庭から排出するごみの量(再掲)	623g/日 (H20)	600g/日 (H26)	602g/日 (H27)	505g/日 (H27)	A	A	指定ゴミ袋制度の導入によるゴミ袋の有料化等、ごみ減量化への取り組みにより基準値より減少している。
68	一般廃棄物再生利用率(再掲)	18.5% (H20)	16.9% (H26)	16.3% (H27)	25% (H27)	C	C	溶融スラグ生成量の減少やごみ固形燃料化施設の停止により、中間処理後の再生利用量が減少したこと等による。
69	産業廃棄物総排出量(再掲)	1,841千t (H20)	1,847千t (H26)	1,848千t (H27)	1,764千t (H27)	C	C	指標設定時の想定より建設工事が増加し、構造物の解体や建設骨材からの廃棄物が増加したことによる。
70	産業廃棄物再生利用率(再掲)	50% (H20)	55% (H26)	55% (H27)	50% (H27)	S	S	目標値を上回っている。
71	産業廃棄物最終処分量(再掲)	144千t (H20)	153千t (H26)	151千t (H27)	105千t (H27)	C	C	指標設定時の想定より建設工事が増加し、建設骨材として必要となる砂利等の生産過程から排出される再生利用等の困難な汚泥の増加したことによる。

重点6 野生鳥獣の保護管理・鳥獣害防止対策の推進

72	ニホンジカの推定生息数(再掲)	69,917頭 (H24)	69,917頭 (H24)	71,146頭 (H27)	33,000頭	B	C	基準値より増加している。第二種特定鳥獣管理計画に基づき、個体数調整を推進していく。
73	獣害防止柵の整備による被害防止面積(再掲)	3,531ha (H26)	3,835ha (H27)	4,063ha (H28)	4,500ha (H31)	A	A	面積は着実に増加している。

重点7 エネルギーの地産地消による地球温暖化対策の推進

74	木質バイオマス利用施設数(再掲)	23施設 (H26)	-	31施設 (H28)	28施設 (H32)	-	S	目標値を上回っている。
75	クリーンエネルギー導入出力 (住宅用太陽光発電)(10kW未満)(再掲)	8.9kW (H26)	-	11.5kW (H28)	14kW (H32)	-	A	基準値を上回っている。
76	クリーンエネルギー導入出力 (小水力発電)(再掲)	1.0kW (H26)	-	1.0kW (H28)	1.2kW (H32)	-	B	基準値と横ばいで推移している。

推進状況の凡例

S	指標が目標値に達しているもの	34	30
A	指標が基準値と比較し上回っているもの	28	26
B	指標が基準値と比較し横ばいであるもの	3	3
C	指標が基準値と比較し下回っているもの	11	17